

建築鉄骨市場が好転している。2012年度をけん引した中小案件に続き、13年度には都市部で大型案件の着工が相次ぎ本格化する。橋梁を含めた建設内需の回復軌道が鮮明になる今、製鉄メーカー、商社、流通、厚板シャー、そしてファブ各社が厳しい採算事情から脱却する好機となるのか。

「仕事納めの日ぎりぎりまで動いてもつわらないと、年明けの納期調整が難しくなる」。この数年年末にはなかった鉄骨加工業者（ファブ）の繁忙ぶりに取引先の流通関係者は戸惑いを隠せない。

5年ぶりの50万ト台射程

減速感が強い製造業向けに対し、薄日が差す建築市場は相対的に視界良好に映る。国土交通省が

建設内需回復の胎動 上

メーカー～ファブ 採算改善の好機に

集計する今年度の着工統計を基に試算する推定鉄骨需要も3年連続で前年を超える水準が続く。鉄構大手で構成する鉄骨建設業協会は、前年比4%強多い450万ト超に上ると試算、13年度は現時点でさらに数%伸びると想定する。08年度以来5年ぶりの500万ト台が射程圏に入る。

最大市場の首都圏は12年度前半、物流や商業関連施設を中心に鋼材使用量が5千トに満たない中小案件の着工が集中。耐震工事や教育施設の新増築も滞らず、下期に入ってから圏内の案件を手掛けるHクラス以下のファブは高稼働を続ける。

向こう3カ月から半年近い受注残が末端実需の底堅さを表す。

建設計画は目白押しながら影を潜めていた大型プロジェクト案件も年度替わりを挟んで順次着工する。都心のオフィス街

足元から2013年にかけて建設予定の主な大型プロジェクト

地域	物件名	鋼材使用量 (ト)
首都圏	六本木三丁目東地区再開発	40,000
	芝浦水再生センター貯留施設合築ビル	38,000
	大手町1-1計画	30,000
	豊洲2-1街区	37,000
	グランドプリンスホテル赤坂跡地開発	30,000
	日本橋2丁目再開発	25,000
	三井住友銀行本店東側計画	20,000
	鉄鋼ビル建替計画	20,000
	目黒駅前地区第一種市街地再開発	20,000
	京橋二丁目西地区再開発	20,000
	豊洲3-2街区	17,000
	千葉駅ビル建築計画	15,000
	市ヶ谷DNP中央街区II期	13,000
	JR田町駅東口北再開発	12,000
旧銀座東芝ビル跡地開発プロジェクト	10,000	
中京圏	名古屋駅新ビル (仮称)	55,000
	大名古屋ビルディング	30,000
	名駅一丁目計画 (仮称) 新築工事	35,000

大型再開発着工ラッシュ

が地に足を付ける。

首都圏案件の一翼を担ってきた地方ファブを取ってきただけでなく、被災地では雇用促進の一環で行政が給付する補助金を充て設備投資に踏み切る動きが拡大。数百トの小口を主体に官域や福島をはじめ企業の集積地向けで、地場ファブの稼働度が急速に向上する。

九州のファブも物流や病院の絡む数百トから5千ト規模の地場案件が注目されている。Hクラスより下のMクラスで着先相次ぐほか、JR大分駅ビルの再開発案件も2万ト規模で控える。北海道も今年度着工を予定した案件の始動が13年以降にずれ込むほか、大阪も計画案件をめぐるファブの

地場市場回帰で過当競争解消も

J-R名古屋駅前周辺の再開発による波及効果も期待材料の一つだが、大型物件はほかにもある。西知多医療厚生組合新病院(愛知県東海市、鉄骨重量6千ト)、デンソー新美(愛知県刈谷市)同、

名古屋商科大学丸の内キャンパス(名古屋市中区、4千ト)、名古屋掖済会病院病棟建て替え工事(名古屋市中区、2千ト)などが建て方を予定する。ネット販売の企業は翌日配達のため、日本のほぼ中心に位置する地の利を生かし、物流拠点を増設する。Mクラスも稼働率が上昇しつつある。Hクラスで対峙し切れない数百ト程度のスーパー、家電量販店などの物件が流れており、13年2-3月ごろまで操業の見通しが立つ。首都圏から地場市場に主戦場を移し、これまでの過当競争が薄らぐ好循環に期待が集まる。消費税増税の追い風も吹く。

低迷状態を脱する突破口につながる素地は整ってきた。環境を生かすかどうかは一連の案件にかかわる企業の意識に委ねられる。

加工、末端にも波及

Sクラスは下請けを担

や主要駅前の再開発事業で1万トを超える新規案件が始動する。

Sクラスのファブは、近年にない高い操業計画を立てる。春先から夏場にかけて地下の基礎工事が始まり、地上の上屋部

加工、末端にも波及

13年は「建設内需復活元年」となる。都市部における大型再開発計画（19日付1面上参照）は、その胎動を感じさせる。

獲れば赤字、断る

建て方期日の近い物件は「ゼネコン各社が、すでにファブリケーターの抱え込みに動き出した」（商社）というから、信ぴよ性も高い。

ゼネコンは2つの理由でいち早くファブを抱え込む。1つは、鉄骨製作が集中する時期を見据え、今から能力を確保しておくという備え。もう1つは、現下の安い受注単価で成約を済ませたおここの思惑だ。

確かに、足元の受注量がまだまだ薄いファブもある。まごまった注文なら指し値に依りてでも受注確保を優先したい心境も理解できる。ただ年明け以降で大型物件の建設ラッシュがみえている。それも相当に高い「ヤマ」

建設内需回復の胎動

①下

メーカー～ファブ 採算改善の好機に

採算性の厳しい注文を無理に焦って引き受けることもない。まして「獲れば赤字」の仕事なら言わずもがなだ。

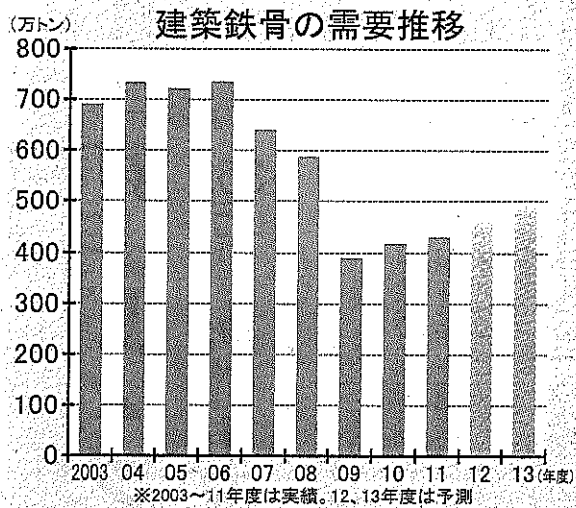
「よつやく」選別受注」できる需要環境が足を立てる。この機を「採算回復にうなづいては」との危機感に立ち、期待感を抱いて「今は我慢のとき」と強く認識する大手ファブは少なくない。

鉄鋼メーカーも覚悟

「今回が最後。次は『な』です」。

来年から始まる足の長い物件で、1回当たり納入量は多くないが総量にすると1千トに上る切板加工を内々に打診された首都圏の建築向け主体の中堅メーカー。ユーザーの指し値は、現在の一般的な地区切板相場を下回るが、値崩れの著しい建材向け切板価格としては驚く値段ではない。

「今年が最後。次は『な』です」。来年から始まる足の長い物件で、1回当たり納入量は多くないが総量にすると1千トに上る切板加工を内々に打診された首都圏の建築向け主体の中堅メーカー。ユーザーの指し値は、現在の一般的な地区切板相場を下回るが、値崩れの著しい建材向け切板価格としては驚く値段ではない。



各階層で値戻しの自助努力が問われる

安値是正「待ったなし」

「選別受注」の環境整う

「今が最後。次は『な』です」。来年から始まる足の長い物件で、1回当たり納入量は多くないが総量にすると1千トに上る切板加工を内々に打診された首都圏の建築向け主体の中堅メーカー。ユーザーの指し値は、現在の一般的な地区切板相場を下回るが、値崩れの著しい建材向け切板価格としては驚く値段ではない。

「今年が最後。次は『な』です」。来年から始まる足の長い物件で、1回当たり納入量は多くないが総量にすると1千トに上る切板加工を内々に打診された首都圏の建築向け主体の中堅メーカー。ユーザーの指し値は、現在の一般的な地区切板相場を下回るが、値崩れの著しい建材向け切板価格としては驚く値段ではない。

「今年が最後。次は『な』です」。来年から始まる足の長い物件で、1回当たり納入量は多くないが総量にすると1千トに上る切板加工を内々に打診された首都圏の建築向け主体の中堅メーカー。ユーザーの指し値は、現在の一般的な地区切板相場を下回るが、値崩れの著しい建材向け切板価格としては驚く値段ではない。

「今年が最後。次は『な』です」。来年から始まる足の長い物件で、1回当たり納入量は多くないが総量にすると1千トに上る切板加工を内々に打診された首都圏の建築向け主体の中堅メーカー。ユーザーの指し値は、現在の一般的な地区切板相場を下回るが、値崩れの著しい建材向け切板価格としては驚く値段ではない。

「今年が最後。次は『な』です」。来年から始まる足の長い物件で、1回当たり納入量は多くないが総量にすると1千トに上る切板加工を内々に打診された首都圏の建築向け主体の中堅メーカー。ユーザーの指し値は、現在の一般的な地区切板相場を下回るが、値崩れの著しい建材向け切板価格としては驚く値段ではない。

「今年が最後。次は『な』です」。来年から始まる足の長い物件で、1回当たり納入量は多くないが総量にすると1千トに上る切板加工を内々に打診された首都圏の建築向け主体の中堅メーカー。ユーザーの指し値は、現在の一般的な地区切板相場を下回るが、値崩れの著しい建材向け切板価格としては驚く値段ではない。

低操業脱却に期待

戸際に追い込まれた覚悟業協会では、その実態調査に着手しているところだ。

「低操業脱却に期待」。ファブの経営環境も一から年度末以降にかけて出段と厳しさを増す。上場件が集中するのは必至。9社の13年3月期（連結鉄骨需要の復調と相まっベース、一部単独）の売ってこれまで低操業にあえ上高は総額で3340億、その結果、単価下落円、経常利益は22億円がを余儀なくされてきた。見込まれるが、直近最高10年3月期に比べ売上高で20・1%減、経常利益に活況を取り戻す期待度益で88・3%減と大幅に高まりだしてきた。

落ち込むもよぶで、収益改善は待ったなしだ。鉄骨の生産能力も減ってメーカー、ファブ、そして国土交通大臣が指定する2つの審査機関による、工場数は1997年度末（3507カ所）をピークに11年度末（2328カ所）までに34%減少。数年前には、全国生産能力が年600万トン、国内物件の受注を敬小台後半との見方が一般遠する動きにあるという的だったが、足元では「実際の需要水準にかなるべきだろう。この機を逃す手はない。」

（太田一郎、齋藤直人、中野裕介が担当しました）

「今年が最後。次は『な』です」。来年から始まる足の長い物件で、1回当たり納入量は多くないが総量にすると1千トに上る切板加工を内々に打診された首都圏の建築向け主体の中堅メーカー。ユーザーの指し値は、現在の一般的な地区切板相場を下回るが、値崩れの著しい建材向け切板価格としては驚く値段ではない。